


名前	駿河谷 諒平 (スルガヤ リョウヘイ)	
所属	北大院・水産科学院・淡水増殖研究室	
職種・学年	博士後期課程3年(来年度から専門研究員)	
実験動物	チョウザメ、ゼブラフィッシュ ときどきサクラマス、ニホンウナギ	
好きな実験	チョウザメの採精、RNA-Seq解析、レポーターアッセイ	
趣味	アクアリウム、釣り、Beatbox、カメラ(主に工場夜景撮影)、競泳、筋トレ	
Homepage	<a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/nl2008jsce/46/171/46_134/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/nl2008jsce/46/171/46_134/_pdf/-char/ja</a> (研究室のHPがないので、以前学会誌に掲載されたラボ紹介の記事を貼っておきます)	
ひとこと	チョウザメ……スキ……。ハイラン……スキ……。	
研究紹介	魚類の卵濾胞が、どのように排卵能 (MISにより排卵し得る能力) を獲得するのか、分子レベルで明らかにしようと試みています。排卵能は、通常刹那的に獲得されるため、長期間かけて排卵能を獲得するチョウザメ類を主な実験材料として研究しています。	
トピック1: 研究の魅力	長命であらゆる生理現象の進行が遅いチョウザメは、本来非モデル生物として扱われます。チョウザメを扱うが故に、研究が行き詰まることも多々あります。ただ、試行回数をゴリゴリに重ねることで、この逆境を覆せたとき、脳汁ドバーですね。	
トピック2: 目標、チャレンジしたいこと	今年度は、チョウザメ卵巣由来の株化細胞樹立やLC/MS/MSIによるプロスタグランジン測定系確立にチャレンジしたいと考えています。もし、これらに精通している方がいらっしゃれば、私にアドバイスをください!!!	

実験で余った卵濾胞で作ったお手製キャビア



バステル



コチョウザメ



ベルーガ



ホシチョウザメ



アムールチョウザメ

うちにいるチョウザメ達  
鼻先の形や口の大き  
さで区別できます。



ロシアチョウザメ



レイクスタージョン



ミカドチョウザメ



カルーガ



シロチョウザメ

帰宅前に筋トレ  
で1日をめます。  
まだまだ努力が  
足りないですね…。

